

## 株式会社オプトラン

### 2022年12月期第2四半期決算説明会（機関投資家・アナリスト向け）QA サマリー

Q1：2Q受注は、スマートフォンが強かったが、下期も継続するのか？

A1：2Q受注のALDは、スマートフォンカメラモジュールが強かった。下期もこの流れが継続することを期待している。

Q2：光馳半導体技術（上海）有限公司（ALD新会社）は、110億円（5億元）投資すると思うが、費用発生のタイミングは？また、回収できるのか？

A2：まず、第1棟等を建設し、その設備投資や販管費で3億元かかる。その後、第2棟を建設する可能性があり、残りの費用の発生の可能性がある。  
光馳半導体技術（上海）有限公司は、ALDだけではなく、エッチングも含んでおり、社内の計画では、資本コストを上回る採算で投資を進めている。

Q3：上海ロックダウンの影響はどうか？

A3：6月、7月、8月に、4月及び5月のキャッチアップのためフル生産に近い。

Q4：2Qの収益性が高かった理由と、継続性は？

A4：2Qは新型装置売上比率が大きかった。また、上海のロックダウンの影響で、販管費が想定よりも少なかった。新型装置売上比率は、今期の目標は35%程度。ロックダウン解除後のオペレーション活発化に伴い販管費は計画に沿って2Qよりは上がる予定であるので、2Qの営業利益率は年度を通しては高い水準と考える。

Q5：ALDの売上・受注が良かったが、その理由は？

A5：2Qの受注は、スマートフォンカメラモジュールの大型化に対応した、高機能化のための投資であり、ニーズは強いとみている。レンズ大型化により、生産量が同じならば、装置台数は多く必要。

以上